魅力ある学校づくりシンポジウム　実施報告

１　日　時　令和８年４月２５日（土）　午前１０時から１１時５０分まで
２　会　場　白岡市生涯学習センター　多目的ホール
３　内　容

⑴　第１部　白岡市の将来の学校づくりに向けた取組状況について
発表者：魅力ある学校づくり推進室長

将来ビジョンに基づき、目指すべき「３つの柱」を中心に説明しました。少子化や施設老朽化、不登校等の課題に対し、個別最適な学びの充実、地域連携による探究学習、安全な環境整備に取り組むとともに、本市の強みである「図書」を融合させた独自の教育展開を提示しました。適正規模・配置の検討を迅速に進めつつ、市民への丁寧な情報共有を図り、児童生徒第一の視点で子どもたちが輝く魅力ある学校づくりを全力で進める決意を述べました。

⑵　第２部　基調講演「子どもたちの未来を広げる新しい学校のカタチ」
講師：茨城県つくば市副教育長　柳下　英子　氏

日本初のＩＣＴ活用やテレビ会議の実施など、先駆的な探究学習を切り拓いてきたつくば市の歩みが紹介されました。人口増加という背景の中、義務教育学校の設置をはじめ、地域の実情に即した多様な小中一貫教育の形態を制度化してきた経緯が説明されました。

こうした取組の根幹には、９年間の学びの連続性によって「中一ギャップ」等の課題を克服したいという、教育現場の切実な思いが語られました。現在は教育大綱に基づき、最上位目標に「一人ひとりの幸せ」を掲げ、「教えから学びへ」「管理から自己決定へ」といった抜本的な教育の転換を図る考えが示されました。

不登校支援の「Ｓルーム」や小規模校での「イエナプラン」の導入、さらには未来の学校像である「ミュージアムパーク構想」など、学校規模を問わず、多様な個性が花開く豊かな教育環境を整えていくという、未来に向けた強い決意が述べられました。

⑶　第３部　パネルディスカッション「白岡の未来を創る『学びのカタチ』を考える」
パネリスト：茨城県つくば市副教育長　柳下　英子　氏
浦和大学　特任教授　安原　輝彦　氏
横松　伸二　教育長

第１部及び第２部の内容を踏まえ、有識者を交えて今後の白岡市立学校の教育について議論を深めました。参加者の皆様から寄せられた質問や意見に対し、

パネリストがそれぞれの専門的な見解を述べながら、未来を見据えた魅力ある学校づくりに向けた展望が語られました。（詳細は、別添１のとおり）

４　参加者　６１名

５　アンケート結果（６０名分を回収：回収率　９８．４％）

質問１　本日のシンポジウムに参加された目的を教えてください。
（複数回答可）

１　白岡市の将来の学校づくりに向けた取組状況を知るため・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・**３３**（２３．６％）
２　今後の学校教育のあり方に関心があったため・・**２８**（２０．０％）
３　これからの具体的な学校のカタチに関心があったため・・・**３４**（２４．３％）
４　有識者の方の講演を聞くため・・・・・・・・・・**３０**（２１．４％）
５　パネルディスカッションに興味があったため・・**１４**（１０．０％）
６　その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　**０**（　０．０％）
無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　**１**（　０．７％）

質問２　本日のシンポジウムの開催を何で知りましたか。（複数回答可）

１　広報しらおか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　**４**（　６．０％）
２　市公式ホームページ・・・・・・・・・・・・・・・**１０**（１４．９％）
３　市公式ＬＩＮＥ・・・・・・・・・・・・・・・・・・**２１**（３１．３％）
４　学校からの案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・　**６**（　８．９％）
５　幼稚園・保育所からの案内・・・・・・・・・・・・　**３**（　４．５％）
６　知人の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　**５**（　７．５％）
７　その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・**１８**（２６．９％）
（市教育委員、審議会での案内、推進室からの通知など）
無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　**０**（　０．０％）

質問３　第１部「白岡市の将来の学校づくりに向けた取組状況について」の説明内容は、今後の学校づくりを理解する上で参考になりましたか。（いずれか１つに○印）

１　非常に参考になった・・・・・・・・・・・・・・・**１８**（３０．０％）
２　参考になった・・・・・・・・・・・・・・・・・・**３１**（５１．７％）
３　普通・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　**８**（１３．３％）
４　あまり参考にならなかった・・・・・・・・・・・　**２**（　３．３％）
５　参考にならなかった・・・・・・・・・・・・・・・　**０**（　０．０％）
無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　**１**（　１．７％）

質問４　第２部基調講演「子どもたちの未来を広げる新しい学校のカタチ」の講演内容は、今後の学校づくりをイメージする上で参考になりましたか。（いずれか１つに○印）

１　非常に参考になった・・・・・・・・・・・・・・・・３５（５８．３％）
２　参考になった・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１（３５．０％）
３　普通・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３（　５．０％）
４　あまり参考にならなかった・・・・・・・・・・・　０（　０．０％）
５　参考にならなかった・・・・・・・・・・・・・・・　０（　０．０％）
無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１（　１．７％）

質問５　第３部パネルディスカッション「白岡の未来を創る『学びのカタチ』を考える」の内容は、今後の白岡市立学校を考える上で参考になりましたか。（いずれか１つに○印）

１　非常に参考になった・・・・・・・・・・・・・・・１７（２８．３％）
２　参考になった・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５（４１．７％）
３　普通・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７（１１．７％）
４　あまり参考にならなかった・・・・・・・・・・・　０（　０．０％）
５　参考にならなかった・・・・・・・・・・・・・・・　０（　０．０％）
無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１（１８．３％）

質問６　本日のシンポジウム全体を通して、総合的な満足度をお聞かせください。（いずれか１つに○印）

１　非常に満足・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２（３６．７％）
２　満足・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４（４０．０％）
３　普通・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９（１５．０％）
４　やや不満・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　０（　０．０％）
５　不満・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　０（　０．０％）
無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５（　８．３％）

質問７　本日のシンポジウムの感想やご意見等がございましたら、お書きください。

・別添２のとおり

質問８　差し支えなければ、以下についてご記入ください。

※　記入があったもののみを集計

１　お住まいの地域

岡泉：１　千駄野：１　小久喜：７　上野田：１
篠津：８　新白岡：１０　高岩：１　白岡：７
西：１　菁莪地区：２　市内：３　市外：３
久喜市：２　加須市：２　行田市：３

２　年代
３０代：３　４０代：１２　５０代：１７　６０代：１４
７０代：８

３　お子さんがいる場合（〇印）
⑴　未就学児：４
⑵　小学生：８
⑶　中学生：９
⑷　高校生：６
⑸　大学生：７
⑹　その他：７

別添１

パネルディスカッション要旨

パネルディスカッションでの議論の内容を、次の５つの項目に整理しました。

1　子ども中心の原点

・教育を議論する際、教員・保護者・行政など大人側の視点や事情が優先されがちですが、本会では「常に子どもを主役に据える」という原点が再確認されました。特に小中学校期は、その後の人生を支える「土台」を築く極めて重要な時期であるとの認識が共有されました。大人の都合を一旦脇に置き、子どもたちがどうあるべきかを最優先に考える学校づくりの重要性が改めて述べられました。

2　対話と自立の環境

・主体性を引き出す対話

物事を「自分ごと」として捉えるためには、全員が顔を合わせるサークル型（円座）の対話が極めて有効であるとの実感が示されました。学級規模については、一人ひとりの声を丁寧に拾いやすい少人数が理想であるという意見や、工夫次第で深い対話の場を創出できるといった、実践的な知見が交わされました。

・ 自立した学習者」への成長

ICT や英語教育は、あくまで可能性を広げるための「手段」に過ぎないとの見解が出されました。真の目的は、子どもたちが自ら学び、自分の成長に責任を持つ「自立した学習者」へと成長することにあるとの方向性が示されました。

3　挑戦を支える寛容さ

・挑戦を支える大人のマインドセット

子どもが失敗した際、それを責めるのではなく、挑戦したプロセスを応援し見守る大人の姿勢が不可欠であると述べられました。多様な個性を認め合う文化こそが、子どもの自己肯定感を育むとの見方が提示されました。

・ 幸せ」の定義をアップデートする

進学や成績は、幸せを実現するための要素の一つに過ぎないとの指摘がなさ

れました。変化の激しい社会において、学び続けるプロセス自体を「幸せ」と捉える価値観の転換が提案されました。

4　地域との信頼の循環

・「仕掛け」が生む地域への愛着

　地域との繋がりが薄れている現代では、大人が意図的に交流の機会を創出する必要性が強調されました。地域の活動を通じて、子どもたちが「大切にされている」と実感することが、将来の郷土愛へと繋がっていくとの見通しが示されました。

・学校を拠点とした共創の場

　「行政の仕事だから」「学校に迷惑だから」という遠慮の壁を取り払い、学校を地域住民が主体的に関われる交流拠点として捉え直す必要性が示されました。大人が地域をより良くしようと行動する背中を見せることが、豊かな人間教育へと結実するとの意見が出されました。

5　多様な居場所の創出

・安心感の土台（S ルーム）

　学校に馴染めない子どもたちに対しても、「いつ来てもいい」という寛容さと温かな声掛けを徹底し、学校を「絶対的な安心感を得られる居場所」として再構築する取り組みが報告されました。

・「違い」を尊ぶ国際的な視点

　宇宙ステーションでの協働事例のように、文化や考え方の違いを「良し悪し」ではなく「単なる違い」として尊重し合う姿勢が求められていると述べられました。自分を表現し、相手を受け入れる営みの積み重ねが、多様性を力に変えて生き抜く力になるとの見解が示されました。

別添２

質問７の詳細について

学校・教育・学びに関すること

・教育の目標は、一人ひとりが幸せな人生を送れるよう、自律できる個人を育むことにある。多様な幸せの形を認め、大人が子どもを過度に「管理」することから白岡の教育が脱却できるかどうかが、今後の大きな分かれ目になる。

・ 教育は学校だけで抱え込むものではない」という言葉通り、理想やビジョンを明確化し発信していくことで、地域や家庭を巻き込んでいく必要がある。皆でビジョンを共有して初めて、新しい学びのカタチが形成されていく。

・どのような大人になってほしいかという「出口」の姿を共有し、そこに至るプロセスを分析することが大切。白岡市の強みや弱みを、定量的なデータも含めて客観的に分析することから始めるべきである。

・学校のあり方の理想は素晴らしい。しかし、不登校の児童生徒を減らせていない現状に対し、教育現場だけでなく福祉などの職域を超えた「切れ目のない支援体制」をどう確立していくのか、具体的な連携強化が不可欠である。

・少子化の中、点在する小中学校の今後の展望を具体的に理解したい。現在は篠津小中学校のみにある支援通級を他校にも広げることや人員配置の拡充、また災害時の「防災拠点」としての学校機能の向上など、現実的な課題への対応を強く希望する。

・安原先生のご意見を伺い、それぞれの段階での「学び続ける姿勢」がいかに大事であるか改めて考えさせられた。「大人が仕掛ける」という言葉も印象的であり、人格の完成に向けた土台作りと郷土愛を育めるよう、地域としても活動に参加していきたい。

つくば市の取り組み・基調講演に関すること

・つくば市の小中一貫教育の背景や理念を詳しく伺い、非常に共感した。学校のみならず、行政や地域全体が「子どもの学び」の本質とは何かについて、より理解を深めていく必要性を強く感じた。

・ 『サークル対話』「子どもを幸せにする学校」「ミュージアムパーク」といった取り組みは、イエナプラン教育の核心そのものであると感じた。これらは決して特異なものではなく、むしろこれからの日本の教育が目標とすべき普遍的な姿であると理解でき、大変参考になった。

・子どもたちに「こうなってほしい」という思いを持つ前に、まず自分たち大人が学ぶ姿や協力する姿を見せたいと強く感じた。

・柳下先生のお話から、教育における「言葉の環境を整えること」の大切さを改めて実感した。

・ 『学校が楽しい」の根幹には「授業が楽しい」という要素がある。先生方が魅力ある授業づくりに専念できる環境と時間は確保されているか。そこに焦点を当てた改革こそが、今まさに必要であると痛感した。

・審議会の委員をしているが、今日のお話を一番最初に聞きたかったと感じるほど素晴らしい内容だった。つくば市の事例を聴いて、白岡市の未来が明るくなるようなワクワクした気持ちになれた。ぜひ現場の教職員の方々にも聞いてほしい内容である。

・プレゼンテーションのスライドが非常に魅力的で情報量も豊富だったが、あまりに中身が膨大であったため、枚数を絞ってでも一枚あたりを詳しく伺いたかった。素晴らしい内容だっただけに、資料を後日配布してほしい。

シンポジウムへの意見と今後の期待

・第１部の説明は簡潔で分かりやすかったが、課題を積み上げているだけで、これからどうしていくのかという市としての意志が語られなかった。今後は、本日の学びを白岡のプランにどう反映させるのか、具体的なスケジュールと実行プロセスを期待する。

・つくば市の事例は参考になったが、白岡市として具体的に「どうやって」「どのように」進めるのかという具体案が示されず残念。義務教育学校の設置や施設一体型校舎の検討など、踏み込んだ案を早期に提示してほしい。

・市民が参加できるこうしたシンポジウムは大変意義深い。一方で、理想論だけでなく、白岡市の教育方針、学校統廃合の現状、ICT 教育の具体の内容、教員不足対策、防犯対策、デジタル教科書の是非など、より具体的かつ現実的な課題についての議論を強く期待する。

・パネルディスカッションにおいて市民の生の声が聞けたのは良かったが、時間の制約からか内容がボヤけてしまった感もある。パネリスト同士の議論や会場との質疑応答の時間をより長く確保し、議題を絞った深い意見交換の場にしてほしい。

・行政は教育にもっと予算を投じてほしい。不登校対策として、他市の「校長室の開放（カードゲーム等を通じた居場所づくり）」のような、すぐにでも実施可能なアイデアも参考にしながら、子どもたちのために最善の環境を整えてほしい。

・シンポジウムの運営について、午前中の長丁場であれば途中に休憩を挟んだり、第３部の前に質問や意見をカードに記入してもらったりする等の工夫があれば、より積極的な意見交換ができたのではないか。